

経営比較分析表（令和6年度決算）

群馬県 桐生市

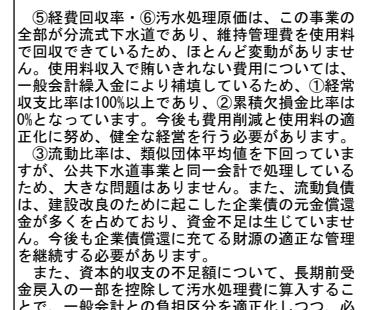
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	51.30	5.56	100.00	2,750

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
101,185	274.45	368.68
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,593	2.31	2,421.21

グラフ例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
□ 令和6年度全国平均

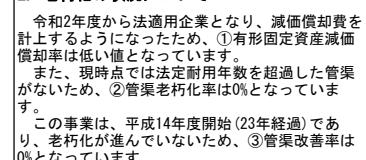
分析欄

1. 経営の健全性・効率性について



なお、この事業の管渠は東毛流域下水道に接続しており、終末処理場を保有していないため、⑦施設利用率は算出していません。
今後の人口動態を踏まえ、適正な投資規模を検討しながら、⑧水洗化率の向上に努めています。

2. 老朽化の状況について

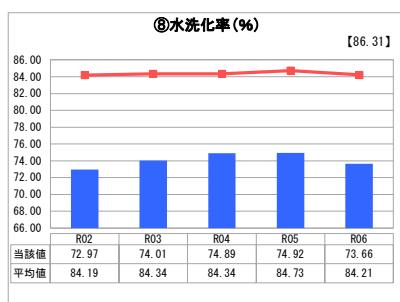
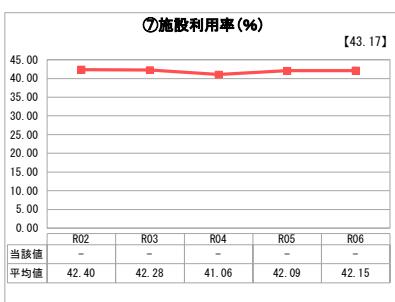
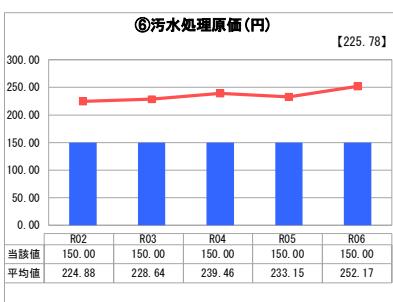
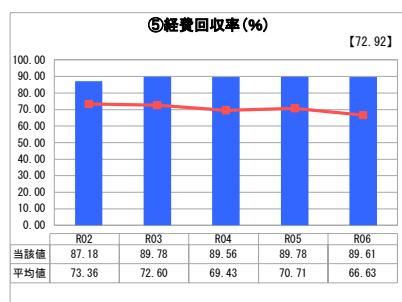
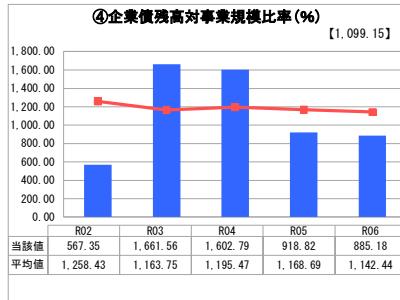
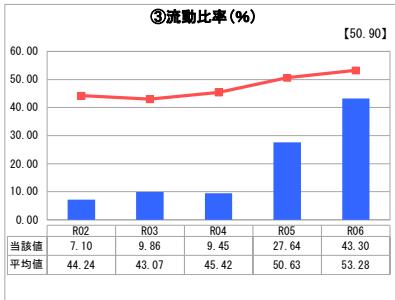
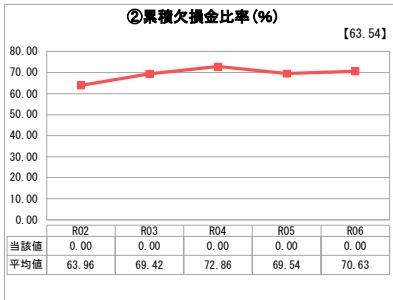
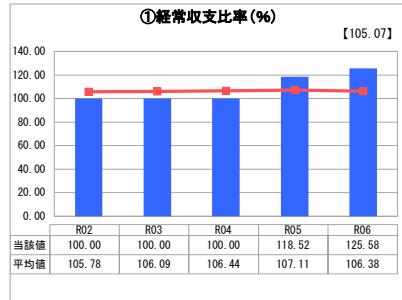


全体総括

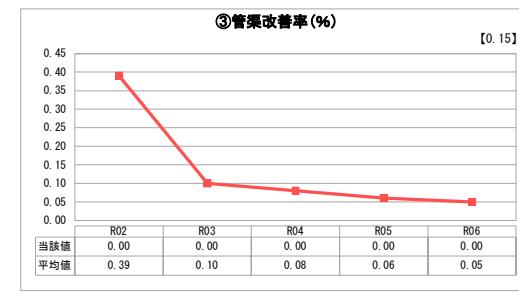
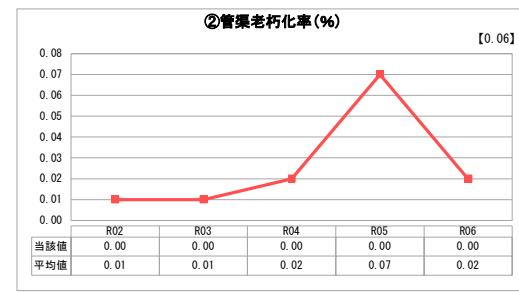
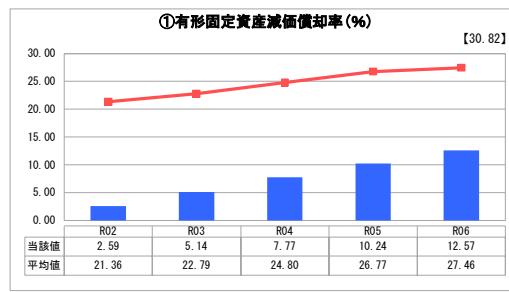
当市は令和2年で法適用企業となりました。これに前後して使用料を3段階で引き上げたことにより、経費回収率が向上し、90%近い水準を保っています。この事業の区域では、大幅な人口減少は起きておらず、大規模な施設を保有していないため、現時点では物価上昇の影響は限定的です。また、施設の老朽化の問題は生じていませんが、農業集落排水事業との統合が今後の課題となっており、これに伴って不明水対策を行う必要が生じています。

こうした中、令和3年度に、ストックマネジメント全体計画の一部として経営戦略を策定し、令和6年度に実行いたしました。費用削減や負担平準化の努力とともに、適正な使用料水準を検討し、将来にわたって持続可能な事業となるよう取組んでいます。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



* 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。